

使用済燃料再処理機構 第67回運営委員会 議事概要

- 1 開催日時 2023年12月15日(金) 13:30~15:30
- 2 開催場所 外部会議室
- 3 出席委員 近藤駿介(委員長)、山口彰(委員長代理)、
小澤俊朗、織朱實、梶川融、塩越隆雄
出席理事 佐藤敏秀(理事長)、河合雅彦、板垣雄士、出光一哉

4 議事の経過および結果

(1) 委員会の成立状況の確認

本日の運営委員会の出席者は10名であった。このうち、塩越委員はWeb会議システムにより出席した。定款第11条第1項に定める運営委員会の成立要件である総数の過半数が出席しているので、本委員会が成立したことを確認した。

(2) 議案審議および自由討議

a. 主な業務の執行状況について

理事長から、主な業務の執行状況について報告を受けた。

委員から、日本原燃の再処理施設のしゅん工に向けた審査対応等について、地盤モデルの検討進捗に比較して、申請対象設備の類型化への対応に時間を要していることについて質問があり、地盤モデル検討が他事業者の発電所審査における知見を活かせるのに対し、類型化は再処理施設独自の項目に対して一からの対応となるために時間を要すると日本原燃から聞いている、と回答した。

委員から、事業者よりプロジェクトマネージャーとしての支援を受けていることに関して、軽水炉での知見を共有し、工程管理等を確実に行うことは有益であるが、日本原燃として自立できるよう、プロジェクトマネージャーの内製化の努力も行うよう意見があった。

<添付資料>

[「主な業務の執行状況」](#)

b. 再処理事業等に係る事業費提案等について(日本原燃株式会社)

日本原燃から、再処理事業等に係る事業費提案について説明を受けた。

委員から、設工認の審査状況について質問があり、日本原燃からは地盤モデルのデータ整理が予定より早く進捗したこと、来年前半の審査を踏まえながら機動的に対応することとしている旨の説明を受けた。

委員から、今後の審査において、施設のリスク重要度に応じた対応がなされることの重要性を原子力規制委員会に理解していただく努力を続けてほしいとの意見があった。

その後、事務局から事業費精査の進め方等について報告を受けた。

再処理施設の高経年化対応に関連して、想定外に設備の劣化が進んだ場合、事業費に影響が及ぶことを踏まえ、その予兆を早期に把握するために、日本原燃がしゅん工後の定期検査において、再処理特有の設備の劣化状況の把握を的確に行っていることを、機構としても確認していくこととした。

引き続き、「事業費精査に係る基本方針」に則り、事務局において精査を進めていくこととした。

<添付資料>

[「事業費精査に係る基本方針」](#)

(3) その他

委員長は、議事概要に記名する者として、委員長の他、山口委員長代理および佐藤理事長の3名を指名したい旨を提案したところ、全員異議なく賛成した。

本運営委員会の議事の経過概要およびその結果を明確にするため本議事概要を作成し、前記3名は次のとおり記名押印する。

使用済燃料再処理機構

運営委員会

委員長 近藤 駿介 印

委員長代理 山口 彰 印

理事長 佐藤 敏秀 印

以 上